

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	027 -	事業名	観光交流推進事業	担当部課	くらし文化部たつせがある課
------	-------	-----	----------	------	---------------

基本情報	第5次総合計画・基本方針	✓ リニモでにぎわい交流するまち	会計区分	一般会計	
	まちづくり行程表・フラッグ	✓ 「みどり」～ふるさと(生命ある空間)の風景を子どもたちに～	予算区分(款 - 項 - 目)		
	第6次総合計画・基本目標	✓ いつでも どこでも 誰とでも 広がる交流の輪	6-1-2 観光費		
	法定受託事務の有無	-			
	その他(関係計画、要綱等)	✓	第2次長久手市観光交流基本計画		
	事業開始の背景、経緯等	愛知万博を契機に長久手市(長久手町)観光交流推進会議が発足し、平成28年1月に長久手市観光交流協会として独立した。			

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 長久手市観光交流基本計画の理念にのっとり、観光交流資源の開発や観光交流施設及び行事等の紹介、宣伝を行い、観光交流人口の増加を図り、もって市の活性化に取り組む。			
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市民・観光者・来訪者			
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) リニモを基軸としたネットワークで観光資源や歴史的・文化的資源を結び、新たな観光交流を推進し、魅力あるまちづくりを目指す。			
	事業を構成する事務事業(B票)	① 観光PR事業	拡充	④	
		②		⑤	
		③		⑥	

コスト推移	項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
	事業費(A)	千円	予算	18,165	18,695	22,031	22,031	22,061
			決算	11,957	18,733	21,362	21,693	
人件費(B)	千円	決算	9,394	5,118	5,719	8,468		
総コスト(A)+(B)	千円	決算	21,351	23,851	27,081	30,161		

成果推移	成果指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
	A 観光者数	千人	目標	3,000	2,800	2,800	2,900	2,900
			実績	3,223	2,841	2,863	2,880	
	B		目標					
			実績					
	C		目標					
実績								
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) 観光PRを行った結果増加すると思われる観光者数を成果指標とする。平成27年度は都市緑化あいちフェアのため短期的に増加を見込んだが、翌年度からは平成28年度並みに戻った。しかし、過去5年間の実績は増加傾向にあるため、平成31年度も増加する指標とした。								
A								
B								
C								

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 尾張旭市観光協会、瀬戸市まるっとミュージアム・観光協会、豊明市観光協会、みよし市観光協会 平成28年1月に長久手市観光交流協会が独立し、平成31年4月には一般社団法人化予定。
------	-----------------------	--

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 補助金を交付している市観光交流協会が、市内外での観光イベントでブースを設置し、観光ガイドブックや市内集客施設のパフレットなどで市の観光PRや交流などを行い、目標を達成出来た。
	過去5年間の振り返り	(過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 平成28年に観光交流協会が市から独立し、独自の観光PRを行っている。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 観光資源を活用したPRは行っているが、施設間や団体間の連携はあまり出来ていないため、連携の必要がある。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 観光施設や商工団体、住民団体などとの連携を強化して、既存の観光資源を最大限に生かしながら、長久手の新たな魅力を創出する人材の発掘、育成が必要。また、特産品になり得る資源の発掘が必要。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 補助金を有効的に活用しながら、より観光PR等を強化するため、今年度中に観光交流協会として法人化する。また、平成29～31年度に県の補助金を活用し、特産品となり得る資源を具体化し、観光交流協会により市PRのためのツールとして活用する。

内部意見	総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見	・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。
------	-------------------------	--

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	観光交流推進事業		担当部課	くらし文化部たつせがある課	決算書ページ	—
事務事業名	①	観光PR事業	予算区分	6-1-2 観光費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	平成16年度	終了(予定)年度	—		

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) ・市観光交流協会が、市内外での観光イベントでブースを設置し、観光ガイドブックや市内集客施設のパンフレットなどで市の観光PRや交流などを行うことを目的に補助金を交付する。 ・市の特産品となり得る資源を発掘するため、県の補助金を活用した地域ブランディング事業を行う。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 交流を促進し、市の活力と魅力を高める。

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
事業費	千円	予算	18,165	18,695	22,031	22,031	22,061
		決算	11,957	18,733	21,362	21,693	
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1)		観光交流協会補助金				18,771	千円
(2)		地域ブランディング事業委託				2,689	千円
(3)		観光事業負担金				120	千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
補助金交付	千円	見込	18,000	18,600	18,771	18,771	18,771
		実績	11,860	18,600	18,771	18,771	
観光者数	千人	見込	3,000	2,800	2,800	2,900	2,900
		実績	3,223	2,841	2,863	2,880	

<備考：活動の概要(30年度(2018))>
 ・市観光交流協会への補助金交付
 ・地域ブランディング事業における資源発掘委託
 ・平成30年秋開催の愛知デザインフェスティバルキャンペーンに伴う、県への負担金

4. 事務事業を取り巻く環境変化

(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
 平成27年度に都市緑化あいちフェアが開催。
 平成28年1月に観光交流協会独立。
 平成28年12月～29年1月までトヨタ博物館休館。

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況

(前年度【予算額】)	(今年度【予算額】)	(増減額)
22,031 千円	22,061 千円	30 千円

(2) 前年度の評価状況《参考》

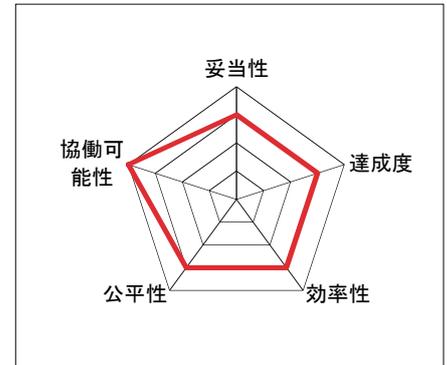
・前年度【今後の方向性】	拡充
・前年度【コメント】	・観光施設や商工団体、住民団体などとの連携を強化して、既存の観光資源を最大限に生かしながら、長久手の新たな魅力を創出する人材の発掘、育成を行うため、引き続き協会へ補助金を交付する。 ・平成29年度から31年度までの事業として、市の特産品開発を目指し、資源発掘のための計画作り等を行う。

(3) 改善状況

(何をどのような状態に改善したのか)
 補助金を交付している市観光交流協会が、市内外での観光イベントでブースを設置し、観光ガイドブックや市内集客施設のパンフレットなどで市の観光PRや交流などを行った。
 また、NTTドコモへ引き続き委託し、地域ブランディングプランに基づいて特産品となり得る資源発掘を行った。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	4



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)

区分	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
見込	-	-	-	-
実績	-	-	62	

(2) 協働の状況(30年度(2018))
 (協働で取り組んだこと、評価できない理由など)
 地域ブランディング事業の中で、主に市民がバイクシェア事業に参加した。

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
 市と協会で役割を明確にし、協会設立後3年が経過して協会独自で事業や事務を行っており、会員主導の事業が徐々に増えてきている。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
 ・観光施設や商工団体、住民団体などとの連携を強化して、既存の観光資源を最大限に生かしながら、長久手の新たな魅力を創出する人材の発掘、育成を行うため、引き続き協会へ補助金を交付する。
 ・平成29年度から31年度までの事業として、市の特産品開発を目指し、30年度に発掘した資源を具体化する。

7. 今後の方向性

拡充